ロシア連邦連邦院議長の招待による同国公式訪問及び各国の政治経済事情等視察参議院議長一行報告書

団　　長	参議院議長	江田　五月
	同夫人	江田　京子
	参議院議員	高嶋　良充
	同	尾辻　秀久
同　　行	国際部長	井高　育央
	議長秘書	大蔵　　誠
	参議院参事	大曽根暢彦
	警護官	若生　忠幸

一、始めに

江田議長一行は、平成二十一年十月九日から同月十九日まで、ロシア連邦のセルゲイ・ミロノフ連邦院議長の招待により同国を公式訪問するとともに、ラトビア共和国及び英国を訪問した。

ロシア連邦では、ミロノフ連邦院議長との会談で、近年日露の議会間交流が十分でなかったことを踏まえて、今後、日露関係を進展させていくためにも、議会間交流を活性化していくことで一致した。モスクワではロシア要人との会談のほか、日本人墓地参拝や無名戦士の墓への献花を行った。

ラトビア共和国では、ダウゼ国会議長及びザトレルス大統領等と会談し、両国の関係強化と協力の必要性について共通の認識を確認した。

英国では、英国議会上院議長及び下院副議長とそれぞれ会談した。また、江田議長はオックスフォード大学からの招請を受けてオックスフォードを訪問し、セイント・アントニーズ・カレッジのニッサン・インスティチュートにおいて現在の日本の政治状況について講演を行った。

以下その概要を報告する。

二、ロシア連邦訪問

（一）ミロノフ連邦院議長との会談

ミロノフ連邦院議長（サンクトペテルブルク市代表）とは本年一月の同議長の訪日以来二度目の会談となった。十二日午前の会談ではロシア連邦院側からポドレソフ連邦院議員（ニージニ・ノヴゴロド州代表）、ポノマリョヴァ連邦院議員（チュコト自治管区代表）等が同席した。

会談では、ミロノフ連邦院議長が本年一月の訪日の際の日本側からの温かい歓迎に対する謝意と今回の江田参議院議長一行の訪露を心から歓迎する、ロシア滞在中に、ロシアの生活やロシア国民に実際に接することにより、ロシア人が極東の重要な隣国である日本に対していかに親近感を持っているかを理解していただけることを期待すると述べた。

これに対し、江田議長から、ミロノフ連邦院議長の公式招待により参議院議長として十年ぶりの訪露が実現したことへの謝意を表明し、日本とロシアはアジア太平洋地域の重要なパートナーであり、政治対話、経済関係、青年交流等が進展する中、特にエネルギーや資源等の経済分野ではお互いに欠かせない関係になっている。ミロノフ連邦院議長のリーダーシップと協力を得て議会間、議員間、国民間の交流と協力が広がることへの期待を表明した。

江田議長はミロノフ連邦院議長に対し、同議長が一月に日本を訪問した時と八月の総選挙の結果政権が交代した今とでは、日本の政治情勢が大きく異なっていることを説明し、政権は代わったが、前政権と同様、現政権も日露関係を重視しており、一日も早く領土問題を解決して平和条約を締結し、すばらしい両国関係を築きたい。そのためにも、是非とも両国関係が一層緊密で信頼でき、互いに繁栄できる関係にしていきたいと強調した。

これに対してミロノフ連邦院議長は、日本では現在二大政党制の形成が進行中と認識している。九月の鳩山首相とメドベージェフ大統領のニューヨークにおける会談での合意は日露関係前進のための要因となると考えている。これからの日露関係はいい雰囲気を持っており、鳩山政権の時に新しいアプローチで日露関係は一層発展すると期待している。新しい政権も前政権同様、幅広い分野で、特に経済･貿易分野で引き続き両国関係が発展するよう取り組んでくれると期待する。新政権が、現実主義的見地から、互恵的な利益に基づいて、過去の容易でない歴史的問題と現在の関係を結びつけることなく、経済関係、政治対話を発展させることが最も重要であり、その上で、共同でその歴史的な問題が解決されるものと期待していると述べた。

ミロノフ連邦院議長はまた、今後の両国関係について、日露両国には、経済危機の克服、アジア太平洋地域における平和と安定の促進といった協力可能な分野があり、鳩山首相が総選挙直後の記者会見で、日露関係には活用されていない潜在力があり、これを活用すべきであると述べたが、メドベージェフ大統領もこの発言を支持しており、連邦院としても本年五月のプーチン首相訪日の際に署名された諸文書について速やかに批准手続を進めていきたい。日露間では、既に良い活動が始まっており、これを一層発展させていく必要があると述べた。

さらに、同議長は、議会間交流を活発化させるとの江田議長の考えに賛成であり、議長間のみならず、議会の委員会レベルでの交流、特に若い議員の交流を活発にし、日露関係の発展に貢献したいと応じた。

江田議長は、ミロノフ連邦院議長の広範にわたる発言に謝意を表明し、日本とロシアは隣国同士であり、その友好なくして、世界の友好はないと考えており、関係改善に対する姿勢は､政権が代わっても変わらないことを確認しておきたい。また、青年同士の交流や観光交流なども重要であり、両国の関係が密接になると、領土問題もあまり難しい歴史の問題ではなくなるのではないか、これを解決して平和条約を締結することが必要であるなどの考えを述べて、会談を終えた。

（二）ラヴロフ外務大臣との会談

江田議長一行は、十二日午後、ミロノフ連邦院議長に続いてラヴロフ外務大臣と会談した。

ラヴロフ外務大臣は冒頭、午前中の江田議長とミロノフ連邦院議長との会談で両議長が日露の善隣友好関係を発展させたいとの思いで一致したことを高く評価したい、また議会間交流を促進することについても協力したいと述べた。

江田議長は、自身はソ連時代に日ソの友好が重要であると考え、二度にわたり訪ソしたが、過去十年間参議院議長が訪露せず、必ずしも温かい関係ではなかったことを残念に思う。前政権の最後の三年間は次第に関係が温かくなってきたが、そこに今度の鳩山政権が誕生し、早速、両国の首脳会談が行われ、政治・経済の問題を「車の両輪」として進める雰囲気が出ており、今後両国の関係は加速度的に改善していくと思う。日露両国は、極東で細い海を隔てただけの近い関係にあり、例えば、シベリアで火傷した子供を北海道で治療することができるような隣国である。資源や観光などの関係を活発化させ、また、領土問題を早期に解決し、平和条約を締結して、安定的かつ繁栄した関係を築きたいと述べた。

これに対しラヴロフ外務大臣から、江田議長の意見に賛同する、九月の両国首脳の最初の会談でも同様の意見が共有された。岡田外務大臣には本年中または来年初めに訪露し、外相会談及び貿易経済政府間委員会が開催できることを期待する。日露の経済的相互依存は、資源のみの関係からハイテクやイノベーションの分野へと拡大すべきである。その例として、本年のプーチン首相の訪日の際に原子力平和利用協力協定が署名された。我々は日本政府が日露関係を前進させる期待を持っていると理解しており、ロシアも同様の気持ちを持っている。ロシア側は、信頼の基礎の上に、両国の議会や国民が受け入れ可能な平和条約問題の解決を模索する用意がある。日本の新たな政府は、近年よりも、よりバランスのとれた、型にはまらない姿勢を示していると考える。両国指導者は、静かで建設的な対話が問題解決に資することで一致しているが、最近、両国議会がいろいろな声明を出しており、このような中では良い雰囲気を作るのは難しいと考える。しかし、ロシアは、経済、政治、人的交流に加えて、外交面や国際社会で日本と協力を進めたいと考えている。江田議長が言われた「車の両輪」を、いわば四つの車輪で関係を進めていきたい。国際的に重要な問題で日露が一致するものは少なくない。存在する日露の潜在能力をさらに活用したい。また、ロシアがアジア太平洋地域の一員として発揮しているイニシアティブに注目願いたい。最後に、緊急事態において日本から受けている人道支援に対して感謝の気持ちを表明したいと述べた。

ラヴロフ外務大臣の発言に対して江田議長は、隣人が困っている時に支援するのは当然であり、今後もいろいろ協力していきたい。ラヴロフ外務大臣が述べた日露間の協力分野については、政府間で率直な意見交換をして関係が強化されることを強く望んでいると述べ、会談を終えた。

（三）グルィズロフ国家院議長との会談

十三日午前は、ロシア議会の下院である国家院のグルィズロフ議長と会談した。

同議長は、十年ぶりの参議院議長の訪露を歓迎するとともに、議会間交流は日露関係に大きな貢献をしており、議会間の協力は日露関係の進展に役立つと確信していると強調し、今後、より頻繁な相互訪問の可能性について議論しなければならないと述べた。

これに対し江田議長は、今回、十年ぶりの参議院議長の訪問となったが、過去十年間の交流は十分ではなかった。今後、両国議会、参議院と連邦院だけでなく、国家院と衆議院も含めて、議員同士の交流を盛んにしなければならないと応じた。

江田議長はまた、同議長に対し、日本の政権が代わったが、日露関係を幅広く良好な関係にしていかなくてはならないという大きな方針は変わらない。恐らく鳩山首相の下で関係改善が加速されるのではないかと考えている。我々は議会の代表であり、外交交渉を行う立場にはないが、両国の友好関係を築き、一日も早く領土問題を解決して、平和条約を締結し、確固たる両国関係を築き上げたいと願っていると述べ、グルィズロフ国家院議長に対して、いろいろな場面で日露関係の推進、前進のために御努力されることをお願いしたいと要請した。

グルィズロフ国家院議長は、五月のプーチン首相の訪日の際の諸合意、特に税関協力、原子力平和利用協力、生態系、海洋生物資源の密漁・密輸の防止の分野で協定が署名されたことの重要性を強調し、国家院としては、諸文書が提出され次第、最短の期間で批准の手続を行う用意があると述べた。

会談の最後に、グルィズロフ国家院議長は、江田議長に対し、横路孝弘衆議院議長に来年のロシア公式訪問の招待を伝達願いたいと要請し、これに対し江田議長は、学生時代からの長い友人である横路議長に招待要請を伝えると述べた。

（四）その他の会談等

江田議長一行は前述の会談に加えて、トルシン連邦院第一副議長（マリー・エル共和国代表）、ニコラエフ連邦院副議長（サハ共和国代表）、オゼロフ連邦院議員（ハバロフスク代表）、フョードロフ連邦院議員（ヴォログダ州代表）等、連邦院対日議員グループメンバーを中心とする議員を昼食に招待して懇談を行った。

また、ＶＴＢ２４銀行、国営公社ロスナノテク社、メトロポール社、商工会議所、トランステレコム社、産業家企業家同盟、ガスプロム社など、ロシアの主要な経済関係者とも懇談し、ロシアの経済情勢、財政政策、ロシアの二〇一〇年度予算、世界経済危機の影響及びその後の対応等について意見交換を行った。

そのほか、駐ロシア日本大使館において、連邦院関係者、ロシアの経済人、文化・芸術関係者、モスクワ在住の邦人等、各界各層の日露関係に関心を寄せる人々と懇談する機会を得た。

三、ラトビア共和国訪問

江田議長一行は、ロシア訪問に続いてラトビア

を訪問した。バルト三国の一つであるラトビアとの議会間交流はこれまであまりなく、本年三月にグンダルス・ダウゼ国会議長一行が訪日した際に懇談する機会があり、その際、同議長からラトビア訪問への要請があったため、同国を訪問したものである。

十月十五日に、ダウゼ国会議長とラトビア国会議事堂において会談、同会談にはベールズィンシュ外交委員長及びスナッチ議員が同席した。

まず、ダウゼ議長から江田議長一行のラトビア訪問を歓迎する、江田議長には半年後に再会することができ大変うれしい、ラトビアの独立以降、両国は緊密な関係を維持してきており、今年は首都リガと神戸市の姉妹都市関係樹立三十五周年となるが、江田議長の今回の訪問により、両国の関係は一層緊密なものとなるだろうとの挨拶があった。

これに対して江田議長は歓迎への謝意を表明し、ダウゼ議長が三月の訪日時に「ラトビアはロシアのことがよく分かっているので、ロシアと日本を結ぶために役立てると思う」と述べたことに言及しつつ、二年前の天皇皇后両陛下のラトビア訪問で両国の関係が一層深まったと聞いており、今後とも様々な分野で交流が進むことを期待している旨述べた。

ダウゼ議長は、両陛下の御訪問以降、両国の関係は広範囲で活発化しており、本年一月のゴドマニス前首相の訪日に続いて、今後、ザトレルス大統領の訪日が実現することを期待したい。ラトビアでは日本に対する関心と日本語学習者が増加しており、日本がラトビアの学生に留学の機会を与えていることに感謝する。ラトビアの国立オペラ劇場では日本人のバレリーナが活躍している。自分としては両国の対話がさらに進展し、経済面でもっと緊密な関係ができることを希望する。ラトビアから食品、木材、医薬品等が日本に輸出されているが、ラトビアは欧州と日本の輸送ネットワークの中心として役立つことができると強調した。

これに対し江田議長は、白樺の対日輸出など経済分野での潜在的可能性があると聞いている。神戸市とリガ市、北海道東川町とルーイエナ町がそれぞれ自治体交流を進めているが、こうした交流は積み重ねが重要であると応じた。

ダウゼ議長はまた、本年八月に日本から直行のチャーター便が飛来して大きな成功を収めたが、今後は、リガ経由でバルト諸国や欧州に移動できるよう航空網を拡充したいと説明した。

最後に、同席のベールズィンシュ外交委員長・元リガ市長から、阪神・淡路大震災の折に被災者の心情に共鳴したリガ市からインド象を神戸市に寄贈した話について紹介があり、リガ市を中心に発展している両国の関係の一層の発展を希望するとともに、日本の外交関係の委員会との交流も進めていきたいとの期待が表明された。

同日午後、江田議長一行は、大統領官邸であるリガ城においてザトレルス大統領と会談した。同大統領は、両国は政治的にも文化的にも良い関係にあり、今後、さらに関係が強化されることを期待する。二〇〇七年の天皇皇后両陛下のラトビ

ア御訪問は極めて意義のある出来事であり、いまだラトビア国民の記憶に新しい。しかし、これはあくまでさらなる関係強化のための端緒にすぎず、ラトビアの指導者はこれからいかに進展させていくかを考えなければならないと述べ、両国関係発展への期待を表明した。

これに対し、江田議長は、両陛下のラトビア御訪問、ダウゼ議長の訪日、そして今回の参議院代表団のラトビア訪問など、両国の関係が加速度的に深まっているのを感じる。一九四〇年代後半のシベリア抑留時代の過酷な生活の中でのラトビア人と日本人の交流のエピソードに感銘を受けた天皇陛下はリガの占領博物館に短歌を残されているが、共に困難な時代を共有した両国民が今度は豊かな時代の中で交流できることは幸せなことである。今、世界経済が困難な中で、両国がいろいろな分野で協力できることを期待していると述べた。

江田議長とザトレルス大統領は会談の中で、地球温暖化問題への取組、核兵器の廃絶、東アジア共同体構想、日中韓関係と北朝鮮問題等についても意見交換した。

そのほか、江田議長一行は、ラトビア滞在中、リガ市内の占領博物館、アールヌーボー建築、国立オペラ劇場等を視察した。

四、英国訪問

江田議長は、十月十六日から十八日まで英国を訪問し、ウエストミンスターの英国議会内でヘイマン上院議長及びヘーゼルハースト下院副議長とそれぞれ会談し、総選挙後の日本の政治状況、英国の政党と選挙制度、上院改革等について意見交換した。

また、江田議長はオックスフォードを訪問し、セイント・アントニーズ・カレッジのニッサン・インスティチュートにおいて現在の日本の政治状況について講演を行った。